

色とりどりの小旗が打ち振られる中、バスから先頭に立って降りてきた安倍昭恵首相夫人の胸元には、福島で収穫されたコットンの種でできた人形「コットンベイブ」の絵柄がありました。ふくしまオーガニックコットンTシャツを着て、子供たちとの交流会場である藤原小学校に会場されたのです。写真。

東北復興日記



140



ふくしまオーガニックコットンプロジェクト代表
吉田恵美子さん



首脳夫人たちと苗植え

今月二十二、二十三日、太平洋に浮かぶ十四の島国から各国の首脳夫妻が福島県いわき市に集い、首脳会議がおこなわれました。「第七回太平洋・島サミット」。いわき市が開催地に選ばれたのは、東日本大震災の被災地から復興の姿を世界に発信したいとの強い要望があつたことでした。しかし、会場は警備の都合で一般市民からは距離があり、市民にとってはなかなか実感を伴わないものになっていました。

そんな中、せっかくの貴重な機会をせめて次世代の若者には体感してもらいたいと、一月から市内の高校生を募つて「島サミット応援隊」を組織。四十二人の隊員たちが、地元プログラムのお手伝い役として参加しました。その一つが、藤原小学校で二十三日に催された首脳夫人と子供たちとの交流会でした。

隊員は、英語でのエスコートのために何週間も前から研修を受け、準備を進めました。そして、市内の小中学生と首脳夫人が交流会で一緒にコットン苗をプランターに植えるという内容が取り入れられたのでした。「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」が震災後、福島の農業

再生を目指してスタートした状況を説明し、応援隊の介添えのもと、首脳夫人たちは子どもたちとコットン苗をプランターに植えていきました。

コットンベイブの絵柄のついたTシャツを着て、ご参加くださった昭恵夫人に、その場で小旗を振っていたコットン栽培の農家のお年寄りは手を合わさんばかりに感激していました。「新しいふくしまは始まっています」。このメッセージが世界に発信されたひと時でした。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。